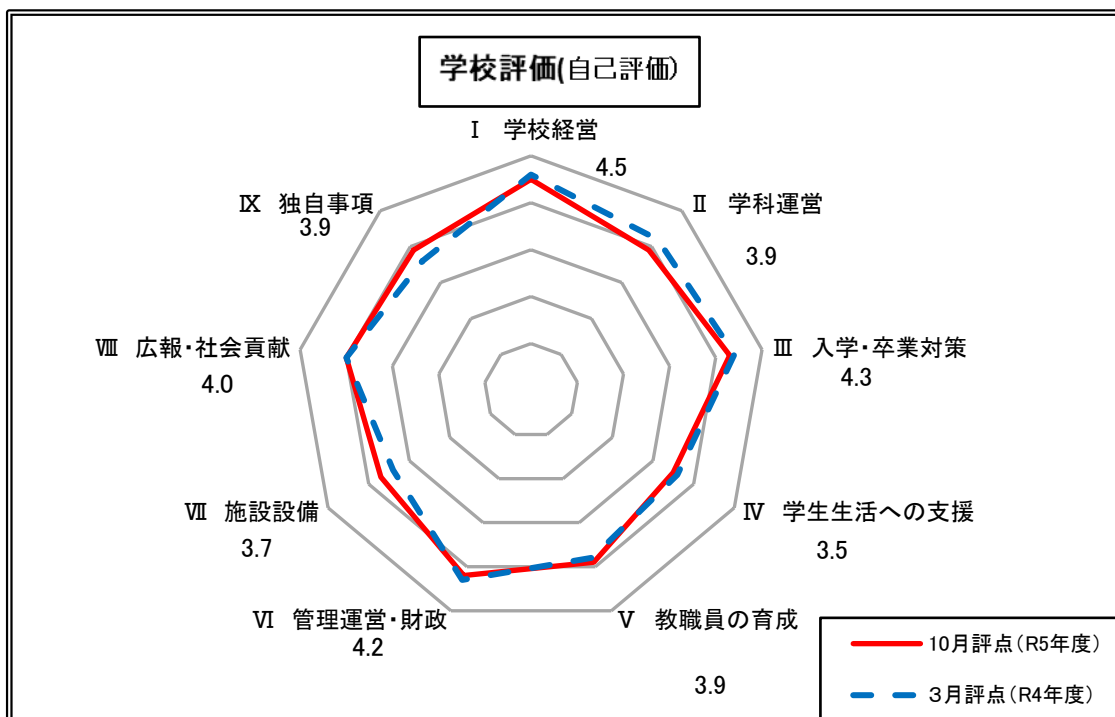


令和5年度 第1回学校運営評価結果

本校は教育の質の向上とより良い学校運営をめざして、教員による「学校評価」を実施しています。評価は9領域42項目について、10月に第1回学校運営評価を行い、令和4年度3月評点と比較しました。5段階評価（良い「5点」、やや良い「4点」、普通「3点」、やや不十分「2点」、不十分「1点」）について、カテゴリーごとの平均点を表しました。



項目	10月評点 (R5年度)	3月評点 (R4年度)
I 学校経営	4.5	4.6
II 学科運営	3.9	4.2
III 入学・卒業対策	4.3	4.4
IV 学生生活への支援	3.5	3.6
V 教職員の育成	3.9	3.8
VI 管理運営・財政	4.2	4.3
VII 施設設備	3.7	3.4
VIII 広報・社会貢献	4.0	4.0
IX 独自事項	3.9	3.6
平均	4.0	4.0

結果

全体の平均点は、4.0点であり、「ややよい」を示し、前年3月と比較しても同様の結果であった。

【Ⅰ 学校運営】 組織目標・年間運営計画に基づく委員会・係活動に取り組んでいる。学校運営評価結果をもとに中期目標・中期計画の見直しをし、後期の学校経営へつなげていく。

【Ⅱ 学科運営】 本カテゴリーでは授業内容の工夫・改善についてが低い結果を示した。新カリキュラム運用2年目となり科目内容が一新し、授業内容や指導方法が学生レベルに合うように工夫・改善しているか評価ができていない。教員間でより効果的な授業となるよう授業研究等引き続き実施していく。また、実習指導者との指導體制の調整に対するポイントが前年に比べ低下したため、指導者会議への参加など、新たに取り組みを始めた。引き続き教育目標・ディプロマポリシーの到達に向け、学生の学修支援を継続する。

【Ⅲ 入学・卒業生対策】 卒業生の対策として、国家試験100%を今年度も目指し教員全体で綿密な学生の支援体制をとっており意識が高い結果となった。前年度は県内就職100%であったが、今年度は93%程度と若干低下したことが本カテゴリーのポイントの低下となった。

【Ⅳ 学生生活への支援】 進学・就学に関する学生の相談に応じているが学生の背景も多様であり、個々の支援に対する自信のなさがポイントを引き下げた結果となった。学生の経済面・身体面の困りごとなどデリケートな問題に対して丁寧な対応を心がけ、スクールカウンセラーや外部相談窓口の紹介等を引き続き行い、学生が相談しやすい体制整備・学業継続支援に努める。学生の自主的活動(学生自治会活動、サークル活動)の時間・場は限られるが、主体的な活動を引き続き支援していく。

【Ⅴ 教員の育成】 前年の3月と比較し、本カテゴリーのポイントの自己評価が上昇した。教員間の授業参観・授業研究により、教育方法の学びや学生のレディネスの把握につながる機会となっている。ペア教員制の導入も2年目となり各教員の意識の高まりが芽生えている。引き続き同僚性および教育力向上につなげる。

【Ⅵ 管理運営・財政】 年間計画に基づき、計画的な予算策定・事業執行を行っている。学生・教職員等の人権・個人情報保護等の観点からハラスメント講座も開催予定である。引き続き、学校運営に学生の意見・要望が反映されるよう、各種アンケート調査、意見箱等による意見・要望の把握に努め、タイムリーな対応を行っていく。

【Ⅶ 施設設備】 前年の3月と比較し、本カテゴリーのポイントの自己評価が最も上昇した。今年度予定された施設設備改修を行っている。教材備品・図書整備は計画的な整備に取り組み中である。ICT機器の活用については県及び県立他校と学習支援システム導入に向け定期的な情報共有を行っている。今後も学生の学修環境の整備に努める。

【Ⅷ 広報・社会貢献】 ホームページの適時更新を行っている。また、地域と連携したボランティア活動に協力し、学校のアピールも行っている。今後も地域、地域の小中学校との連携強化に取り組んでいく。

【Ⅸ 独自項目】 学生の要望に応えパソコンの持ち込み等電化製品の規制を一部解除した。また、コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、生活に対する制約等も緩和された。引き続き寮生の意見や要望の把握とその対応に努める。